

講義科目名称： プロジェクト実践演習Ⅰ／全科（共通教養科目） 授業コード： 2112413 2115243 2131301
2135411 2151266 2155285

英文科目名称： Project Practice Exercise I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年・2年	2単位	選択必修
担当教員			
小滝 正孝			
[科目ナンバリングコード] SOC-0-L-4	[種別] 演習	[科コース(専攻)] 全学科	[授業時間]
添付ファイル			

関連するDPと学修成果	[関連するDP] DP1 [知識・理解] [態度・志向] [技能・表現] [思考・判断] ○地域課題解決力 △チームワーク・リーダーシップ △生涯学習力と自己管理能力 ◎論理的思考力・問題解決力
アクティブラーニング	調査学習、フィールドワーク、ディスカッション、PBL
ICTの活用	Googleクラスルームを活用する、インターネットを活用した調査学習
地域の学修	該当あり
授業の概要とキーワード	本演習では、和歌山の魅力を広く伝えることを課題に、和歌山の魅力を掘り起こし、付加価値を加えて地域活性に繋げる地域ブランディングを体験的に学ぶ。2025年度は、紀の川市の地域資源を購入してもらうための実践的な取組を行う。フィールドワーク、ディスカッションなどを通して、課題発見力・解決力の向上を目指す。【課題解決、地域ブランド開発、コミュニケーション】
実務経験と授業内容	行政で施策の企画立案・事業実施の経験を有する教員が授業を担当。紀の川市役所職員及びJA他の賛同メンバーが外部講師として指導助言する。課題解決に実際に取り組むことで学修を深める。
学修成果の領域 学生の到達目標◎	〈思考・判断〉 物事を筋道立てて考え、地域の課題を解決することができる。
学修成果の領域 学生の到達目標○	〈態度・志向〉 課題を発見し、創造力を駆使して、より良い方向性を導き出すことができる。
学修成果の領域 学生の到達目標△	〈態度・志向〉 他者と協力して、課題解決に取り組もうとする態度が身についている。
学修成果の領域 学生の到達目標△	〈態度・志向〉 様々な情報を収集、分析し、課題解決に当たろうとする姿勢が身についている。
授業のテーマ及び内容	01 オリエンテーション・フィールドワーク 【紀の川市を知る】 7月5日(土)8時間 本学教員、外部講師 ①オリエンテーション ②地域ブランディング(講義) ③紀の川市の現状を知る(フィールドワーク) i JA紀の里めつけもん広場視察 ii 市内観光地視察 02 企画会議(1) 【ミッション提示】 8月4日(月)8時間 本学教員、外部講師 ①市内施設見学・視察 i ノーキョー食品工場見学 ii 移住者・起業者視察 ②今年度のミッション提示 ・紀の川市の地域資源を買ってもらうために必要なことは何か? ③アイデアを出して実現した事例 ・住宅取得奨励金 ・イチジクピューレの販売促進 ・日本一“おかしな”駅弁 ④アイデアを出す練習(②の課題に対して) ・プレスト&KJ法 03 企画会議(2) 【課題に対して解決策を考える】 10月4日(土)8時間 本学教員、外部講師 紀の川市の地域資源を買ってもらう事業を企画する。 04 実践 【考えた解決策の実施計画作成】 10月25日(土)8時間 本学教員、外部講師 課題解決に繋がる事業企画を関係者と協議し、実行する。可能であれば、実際に販売ないしは販売補助を行う。 05 成果発表 【実施計画を提案先に提案or取組内容の報告】 1月17日(土)8時間 本学教員、外部講師 成果発表会を開催する。

【期末試験】評価の割合と観点	
【課題】評価の割合と観点	<p>〈思考・判断〉50% 課題解決のため、論理的に考え解決策を提案することができるか。</p> <p>〈態度・志向〉30% 課題を見出し、柔軟な発想で解決のための方策を提案することができるか。</p>
【平常点】評価の割合と観点	<p>〈態度・志向〉10% 他者と協力して課題解決の実現に向けて取り組むことができるか。</p> <p>〈態度・志向〉10% 様々な情報を収集・分析し、より良い方策を提案できているか。</p>
【その他】評価の割合と観点	
教科書	適宜資料を配付する。
参考書	<p>岩崎邦彦著 「地域引力を生み出す観光ブランドの教科書」 日本経済新聞出版社</p> <p>佐々木一成著 「観光振興と魅力あるまちづくり 地域ツーリズムの展望」 学芸出版社</p>
課題・試験等のフィードバック	提出された課題に対して、参考となる見解等についてコメントし、紹介する。
予習・復習の内容と時間	課題解決のための情報収集を行い、アイデアをまとめておくこと。240分。
免許・資格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、情報処理士、上級情報処理士
受講要件等	特になし
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。
備考	プロジェクト実践演習対象科目は1科目に限り共通教養科目として単位認定する。複数履修する場合は、その他集中科目の単位として卒業単位に認定する。最終の成果発表日は、関係者との調整で日程を変更する場合がある。フィールドワークをはじめ学外で演習を行うこともある。メモ用紙を用意すること。